

第3章 都市構造の検討

1. 基本的な考え方 時点修正

重点整備地区は、茅ヶ崎市の地区拠点として育成されるべき地区であることから、隣接している湘南C-Xとの連携を強化するとともに、赤松町地区に係るまちづくりの考え方を踏まえ、必要となる都市機能の適切な配置と先導的に整備を進める拠点の形成、骨格となる軸の形成などの都市構造を検討する。

2. 広域道路体系

辻堂駅周辺の道路体系は、駅を中心とした放射型のネットワークとなっており、これに湘南C-Xと地区内の東西・南北路線の整備により放射環状型のネットワークとなる。

重点整備地区は、この放射環状型道路体系の北西部に位置し、西側に開いた放射環状型の道路網を基本とした骨格軸体系を形成する。

図 広域道路網



3. 骨格軸構造

骨格軸構造は、広域的な自動車アクセスを担う幹線軸と、幹線軸を補完する地域的な歩行者中心の歩行軸によって形成する。

また、地区防災上、幹線軸は延焼遮断帯となるとともに、歩行軸は緊急車両の進入路としての機能を担うものであり、地区防災の視点も合わせてネットワークを形成する。

(1) 幹線軸

辻堂赤羽根線（赤松通り）を放射軸、東西・南北路線と国道1号を環状軸として幹線軸を形成する。

①辻堂赤羽根線（赤松通り）

辻堂駅西口から地区内を縦断し、駅へのアクセス機能を担うとともに、骨格となるシンボル路線である。

現在幅員11mで整備済みの都市計画道路であるが、将来的には再整備を行い、歩行者空間の充実とシンボル路線としての景観形成を図る。

②国道1号

地区の北側に位置する路線であり、北側の都市計画道路（新国道線）の整備により渋滞の解消を図る。

③東西・南北路線

鉄道により分断された南北市街地の流動を円滑にするとともに、湘南C-Xにアクセスする新規路線となる。

(2) 歩行軸

幹線軸を補完する歩行者軸として、3路線を設定する。

①歩行軸1

駅と北側への歩行者アクセスを担うとともに、湘南C-Xとのバッファ（緩衝帯）機能を担う。

②歩行軸2

駅と赤松町地区とのアクセスを担うとともに、地区内の拠点や公園等へのアクセスを担う。

また、東小和田公園にアクセスし、公園と地区とをネットワークする路線である。

③歩行軸3

駅前拠点への歩行者アクセスを担うとともに、本宿町の緊急車両の進入路としての機能を担う路線である。

4. 拠点配置

(1) 駅結接拠点

本市の地区拠点の顔として、交通結接機能と駅利用者を対象としたサービス機能等を誘導する。

① 自転車駐車場

外来者が駅から目的地まで向かうのに対応したレンタサイクルや、自転車のメンテナンスも行えるサイクルステーション等。

② 公共公益サービス機能

少子高齢化に対応した施設や、市民が集まり交流する場づくりを目的とした文化・教育施設等。

(2) 都市型産業拠点

都市型産業拠点は、次の3つの機能を民間活力により、整備・誘導していく。

① 産業機能の保持

市を代表する産業と雇用の場としての機能を維持する。

② 賑わい施設の導入

現施設の更新や土地利用転換の際には、地区のシンボル路線である辻堂赤羽根線（赤松通り）沿いに、まちの顔としての賑わい施設となる企業ショールームなどの設置を誘導する。

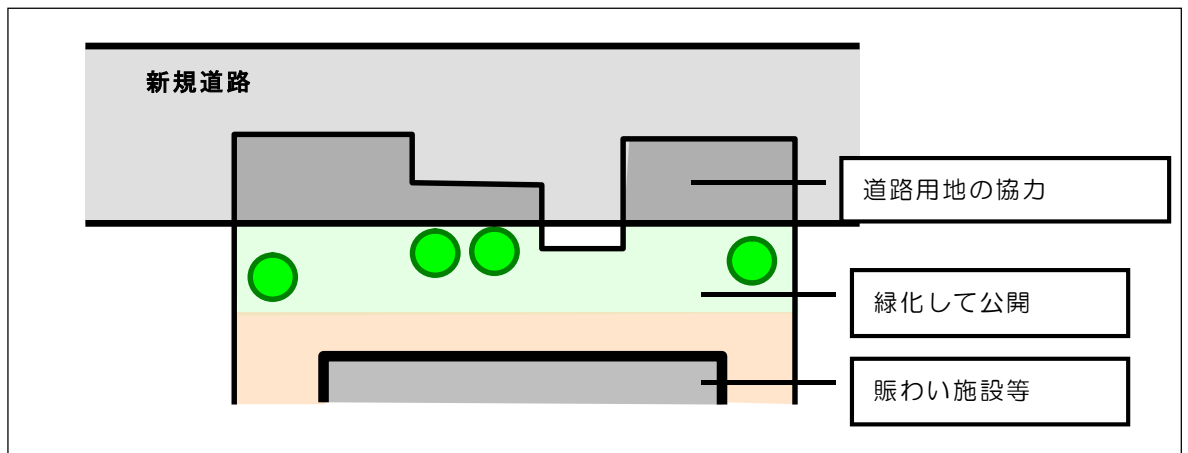


ショールームのイメージ
（資料）松下電工（株）

③大規模敷地と地区の連携 **時点修正**

都市基盤整備に際して一部用地の協力や、大規模敷地境界部の緑化、厚生施設の地域への開放など、大規模敷地と地区の連携を進める。

図 整備・誘導のイメージ



(3) 『住』を中心に、活力と賑わいを創出する都市拠点 **新規**

赤松町工場跡地は、「『住』を中心に、活力と賑わいを創出する都市拠点」として、周辺地域の住環境との調和といった観点から必要とされる機能の誘導を図りつつ、「人・地域」、「安全・安心」、「エネルギー・資源」を柱とした将来に『つながるまち・くらし』づくりを進める。

(4) 近郊型居住拠点

閑静で潤いのある居住拠点を形成する。

地域防災計画に位置づけられている避難所（小和田小学校）が国道1号の北側にあることから、一時的・補完的な防災機能を担う拠点を整備する。

また、地域住民のコミュニティの中心となる地域コミュニティ施設を配置し、既存の公園とともに緑と憩いの拠点を形成する。